

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	アミューズメント産業論							
担当教員	木川 剛志					科目ナンバー	A72060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本授業ではアミューズメント産業としての“観光”にまつわる様々な社会問題の事例を学びながら、文芸とアミューズメントとの関係を概観する。							
授業の概要	COVID-19の世界的な拡大で世界の観光業は大きな打撃をうけている。COVID-19以前は、世界的な観光客の増加、SDGsの推進における貢献、日本においてはインバウンド誘客による産業構造の変化、そして交流人口増加による地方の活性化、などによって、観光は注目され、日本における最も大きな産業と考えられた。同時に、この急激な変化は日本社会に多くの軋轢を生み出していた。そして、COVID-19の時代、このような観光を改めて見直す必要がある。本講義では観光の現場における課題をみんなで共有し、産業と文芸との関係を読み解きながら、これからの観光のあり方について一緒に考える。							
到達目標	①アミューズメント産業の問題点に対する知識を深め、議論を深めて理解する。【知識・理解】 ②観光におけるSDGsの実例を学び、今後のあるべき社会を思考できる。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 “これまでの観光とは違う観光”の考え方。 第2回 地方都市が観光に期待する交流人口とは。 第3回 まちづくり、「よそ者馬鹿者若者」から「地者キレ者中高年へ」。 第4回 地方発の短編映画。ムービーハッカソン。 第5回 地方発映画、その問題点とは① 第6回 地方発映画、その問題点とは② 第7回 これまでのまとめ。 第8回 地方に見られる面白観光映像問題とは① 第9回 地方に見られる面白観光映像問題とは② 第10回 世界最先端の観光映像。オーバーツーリズムを乗り越えて。 第11回 世界最先端の観光映像。インディペンデントな映像とは。 第12回 世界最先端の観光映像。SDGsを満たすために。 第13回 エンターテインメントと文芸の関係。 第14回 これからの観光のあるべき姿。 第15回 全体のまとめ。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】事前に指示する文芸作品を見ておくこと（2時間）。 【授業後】ディスカッションペーパーを記述し、自分の考えをまとめて次回に提出（2時間）。							
授業方法	【遠隔授業】 遠隔授業を行います。 授業はYoutube LiveもしくはYoutubeに事前にアップした内容を用いて行い、Zoomでの双方向の時間も持ちます。 これらのツールを総合的に用いた授業を行います。							
評価基準と評価方法	・ディスカッションペーパー20%：各回提出（講義内容に関連する宿題。コメントなど）到達目標①、②の到達度の確認。 ・レポート30%：2回程度（講義内容を踏まえた各自の考え方を問うレポート。） 到達目標②の到達度の確認。 ・ディスクローザー試験50%：学期末に一度。授業に対する理解度、社会問題に対して明確な問いを持っているかなどについて評価する。到達目標①、②の到達度の確認。							
履修上の注意	アクティブラーニングを積極的に取り入れる。講義全体の2/3の出席がなければ受講資格を失う。							
教科書	なし							
参考書	なし							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	イラストレーション・絵本／文芸との触れ合いⅢIA							
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバー	A22050	
学期	集中講義		曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	パソコンソフトのIllustratorを活用したイラストレーション制作のスキルを習得する。							
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(Illustrator)を利用したイラストレーション制作の入門として、直線・曲線や文字などのオブジェクト入力、回転・拡大縮小などの編集、植物・動物・人間モチーフの描画、ポストカード作成などを通じて、基本的イラスト作成スキルを習得するとともに、簡単なイラストブックを制作する。							
到達目標	(1) イラストレーションというメディアの現代的な意味と価値を理解できる。【知識・理解】 (2) パソコンによるイラストレーションの基本的技能を活用した自身の表現ができる。【汎用的技能】 (3) イラストレーションと言葉の複合により、他者に伝わる表現ができる。【汎用的技能】							
授業計画	1)	10/02	オリエンテーション	PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本				
	2)	10/09	直線・曲線の描き方	ペンツールの使い方				
	3)	10/16	フリーハンドでの描き方	ブラシツールの使い方				
	4)	10/23	オブジェクトの編集	整列、拡大・縮小、回転、変形など				
	5)	10/30	文字・テキストの編集	フォント、スタイルなどのタイポグラフィ				
	6)	11/06	ピクトグラムのコピー	基本図形の編集によるオブジェクト作成				
	7)	11/13	基本的なイラスト作成 - 1 -	植物モチーフ				
	8)	11/20	基本的なイラスト作成 - 2 -	動物モチーフ				
	9)	11/27	イラスト作成の応用スキル	パターン、グラデーション、トレースなど				
	10)	12/04	イラストブックの制作 - 1 -	テーマ設定、ページ構成構想				
	11)	12/11	イラストブックの制作 - 2 -	イラスト制作				
	12)	12/18	イラストブックの制作 - 3 -	イラスト制作				
	13)	01/08	イラストブックの制作 - 4 -	イラスト制作				
	14)	01/15	イラストブックの制作 - 5 -	ページレイアウト、印刷・製本				
	15)	01/22	講評					
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に目にする雑誌、絵本、コミックなどのイラストレーションに関心を持つ。また紙の上でのペンや色鉛筆によるスケッチやイラストを試み、アナログ手法を体験することで、PC上での作画作業との違いを理解する。グラフィックソフトによる作画手順を手書き作業で復習することで、ソフトの機能と操作について習熟する。合わせて4時間程度。							
授業方法	講義・実技 PC教室で各自が1台ずつのPCを利用し、グラフィック・ソフトの操作方法の講義を聞き、実技でスキルを習得する。							
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。							
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるので、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル（授業で指定）を購入し、制作課題を保存すること。							
教科書	「Illustratorでイラストを描こう！ 超入門教室」、廣まさき著、技術評論社、¥1,980（本体）ISBN978-4-7741-8166-0							
参考書	授業中に紹介します。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	演劇と現代社会／文芸特殊講義VB						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバー	A43050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本と英米の演劇発展の基本的知識を習得する。						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成をに応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 7. 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展 10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティ 11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40％）、期末レポート（60％） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集A						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	A7313A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	1. 広告の手法を理解し説明することができるようになります。（知識・理解） 2. 広告を立案し、文章制作、編集することができるようになります（汎用的技術） 3. 自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現することができます。（態度・志向性）、 4. 自分の意見を、相手にうまく伝えることができるようになります。（態度・志向性） 5. また、ものごとの本質を見極める力、他者へ共感する力を育て、これらで社会に貢献することができます。（態度・志向性）						
授業計画	1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場① ※グラフィック広告はどうやってできるの？ 14. クリエイターの現場② ※TVCMは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習として、ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。（1時間）事後学習として、授業で学んだ広告理論等が、どのように社会で反映されているかを検証してみましょう。（1時間）						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	提出課題の内容（50％）到達目標 1～5に関する到達度の確認 発表力（30％）到達目標 4および5に関する到達度の確認 とりくむ姿勢および出席率（20％）質疑応答で評価						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー－コミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集B						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	A7313B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	1. 広告の手法を理解し説明することができるようになります。（知識・理解） 2. 広告を立案し、文章制作、編集することができるようになります（汎用的技術） 3. 自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現することができます。（態度・志向性）、 4. 自分の意見を、相手にうまく伝えることができるようになります。（態度・志向性） 5. また、ものごとの本質を見極める力、他者へ共感する力を育て、これらで社会に貢献することができます。（態度・志向性）						
授業計画	1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状 ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろいろな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF）※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習として、ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。（1時間）事後学習として、授業で学んだ広告理論等が、どのように社会で反映されているかを検証してみましょう。（1時間）						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	提出課題の内容（50%）到達目標 1～5に関する到達度の確認 発表力（30%）到達目標 4および5に関する到達度の確認 とりくむ姿勢および出席率（20%）質疑応答で評価						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方つくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー－コミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告とコミュニケーション／比較文化VA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告（広報）を多角的に理解する						
授業の概要	本講義では、社会において広告がどのように役立っているのかを多角的に理解しつつ、実際の広告物の制作へとつなげていくことを目指します。まず、映画やソーシャルメディアを事例に、広告（広報）の役割をさまざまな角度からみていきます。また、それらのトピックごとに広告（広報）を企画することによって、広告制作がどのようなものなのかについて実践的に学びます。これらを踏まえたうえで最後に、簡単な広告をつくることに挑戦してもらいます。						
到達目標	（１）映画やソーシャルメディアにおける広告（広報）の役割について多角的に理解できるようになる。【態度・志向性】 （２）広告（広報）の企画や制作を通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイディアを発信するための力を身につけます。【汎用的技能】						
授業計画	1 インTRODクシヨN 2 映画と広告（１）：ジブリ映画の広告① 3 映画と広告（２）：ジブリ映画の広告② 4 映画と広告（３）：製作委員会方式 5 映画と広告（４）：映画広告の企画 6 ソーシャルメディアと広告（１）：『トウルーマン・ショー』鑑賞 7 ソーシャルメディアと広告（２）：『トウルーマン・ショー』解説 8 ソーシャルメディアと広告（３）：ネット時代の消費と広告 9 ソーシャルメディアと広告（４）：イベントの企画 10 広告をつくる（１）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（２）：広告コンセプトを決める 12 広告をつくる（３）：広告の表現方法を定める 13 広告をつくる（４）：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内で広告企画や広告制作など、すべての学習を行う。 授業後学習： 広告企画や広告制作が授業時間内で完成できなかった人は、次の回までに完成させておくこと。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。 広告企画や広告制作に際しては、個人やペアによるワークをする。						
評価基準と評価方法	制作課題 50%： 広告（広報）制作を通じて、自分のアイディアを発信できているか評価する。到達目標（２）の到達度の確認。 広告企画 20%： 広告（広報）の企画を通じて、現代社会におけるそれらの役割が理解できているかを評価する。到達目標（１）の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（１）および（２）の到達度の確認。 なお、第14回に制作課題発表会を実施し、制作物に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	諸芸術の交流／比較文化ⅠA						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバー	A32010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代の文芸運動で生まれた芸術的要素を理解し、それがサブ・カルチャーを含めた様々な現代の文芸とどのように結びついているかを学ぶ。						
授業の概要	前半では近現代以降に起こった主な文芸運動の概要を学び、後半ではその文芸運動で生まれた芸術が、21世紀の文芸（小説、映画、演劇、美術、漫画、アニメなど）とどのように結びついているかを学ぶ。						
到達目標	①芸術の諸要素を学び、レポート作成に生かせるようにする。（汎用的技能） ②授業で学ぶ近代以降の文芸運動について自分の言葉で語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	1. 20世紀までの文芸運動 2. ロマン主義と現代への影響①小説、絵画、演劇 3. ロマン主義と現代への影響②漫画、映画 4. 自然主義と現代への影響①小説、絵画、演劇 5. 自然主義と現代への影響②漫画、映画 6. 表現主義の絵画と映画 7. シュールレアリスムの絵画と映画 8. 現代における諸芸術の交流 9. 漫画・アニメの中の表現主義とシュールレアリスム 10. 漫画を原作とした映画：アメリカ 11. 漫画を原作とした映画：日本 12. 小説・戯曲が原作の映画：シェイクスピア 13. 現代映画にみられる表現主義とシュールレアリスム 14. ジャンルを超えた舞台パフォーマンスの融合：海外のオーディション番組 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、300字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40％）、期末レポート（60％） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。（到達目標②の確認） 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。（到達目標①の確認） 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西欧芸術と文化／文芸講読ⅠA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A12010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画の鑑賞と分析の方法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の近代絵画を論じた文芸評論を精読する。						
到達目標	① 19世紀のフランス社会の変化が、どのように絵画に影響したか説明できる。【知識・理解】 ② 印象派絵画の美術史的意義を説明できる。【知識・理解】 ③ フランス印象派の絵画とその魅力について説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 導入と授業計画 2. 評論「モネ」 (1) 光 3. 同 (2) 自然 4. 同 (3) バルビゾン派 5. 同 (4) ターナー、ドラクロワ 6. 評論「セザンヌ」 (1) プロフィール 7. 同 (2) 自然 8. 同 (3) 光 9. 同 (4) 色彩 10. ワグナー 11. ボードレール (1) 象徴主義 12. 同 (2) 近代絵画 13. 同 (3) 近代批評 14. 象徴主義 (1) ワグナー 15. (2) ボードレール 16. (3) モネ 17. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 講義を理解するためには、19世紀フランス絵画に触れておく必要がある。 【事前学習】 ・内容 美術展に通うこと。 TVの美術関連番組（「日曜美術館」など）を見ること。 ・方法 作品を見る。 ・時間 上記全てのことを合わせて30時間以上行う。 【事後学習】 ・内容 事前学習で見た展覧会の作品、TVで紹介されていた作品などを、授業で学んだ方法を通して、鑑賞・考察する。 ・方法 資料（図録など）、参考文献、授業ノートを読む。 ・時間 上記全てのことを合わせて30時間以上行う。						
授業方法	講義 画家や文学者、音楽家の経歴を紹介しながら、テキストを読んで行く。 有名作品の画像を見る。 理解度と知識を問う質問を行い、疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％ ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出题する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						

履修上の注意	欠席5回で失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋演劇史／文芸特殊講義VA						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A43040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史と現代演劇との関係を学ぶ						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成をに応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	1. 文芸と演劇について 2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 8. 近代：イブセン① イブセンについて 9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ 11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理演劇について 12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 13. 現代：プレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 14. 現代：プレヒト② 現代劇への影響について 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40％）、期末レポート（60％） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	西洋の近現代演劇／文芸講読VIB							
担当教員	柊井 智英					科目ナンバー	A12080	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)							
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較する。							
到達目標	①俳優の演技という視点から戯曲分析や上演分析を行う力を身につけ、応用できるようになる。(知識・理解) ②映像言語として俳優の動きの重要性とその役割をしっかりと自分の言葉で語ることができるようになる。(汎用的技能) ③社会問題への関心を広げ、現代社会が抱える問題に積極的に参加できるようになる。(態度・志向性)							
授業計画	1. 作品とその背景 2. 映画作品と戯曲について 3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 映像資料を中心に作品を理解する 4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② 出来事の経緯についてまとめる 5. 演技を考える: 与えられた状況(演じる役) 6. 演技を考える: 与えられた状況(演技する環境) 7. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より 8. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に 9. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に 10. 物語の展開と作品の背景について 11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景 12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。 13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較 14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に 15. 授業内容の要点のまとめ							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を、登場人物の性格に深く関連した言動に注意を払いながら精読し、特に重要と思われる言動を2, 3ピックアップしておく。またなぜそれが重要だと考える理由も述べるができるようにしておく。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)							
授業方法	講義: 戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)・期末レポート(60%) 授業内での提出物: 各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述的的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末レポート: 指定されたテーマに示された問題を、戯曲と映像分析を中心に明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①と② 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。							
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。							
教科書	適宜プリントを配布。							
参考書	『Film Analysis映画分析入門』マイケル・ライアン、メリッサ・レノス(著)、田畑暁生(翻訳) 『映画のどこをどう読むか(ジブリLibrary一映画理解学入門)』ドナルド・リチー(著)、三木宮彦・司馬叡三(翻訳)、スタジオジブリ							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	セリフ表現と演技法／文芸との触れ合いⅠⅡA						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	A22030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『夏の夜の夢』のセリフ表現から、演技の基本的要素を理解し表現力を高める。						
授業の概要	実際に声に出してシェイクスピアの『夏の夜の夢』（『真夏の夜の夢』）の戯曲を読んで、小説と戯曲の違いの理解を深める。また、実際の舞台上映や映画の映像資料を通して、この劇を上演史を紹介する。そのうえでセリフ表現から演技や発声の基本を学び、声を使った表現力を高める。また俳優の演技という視点から映像や舞台分析できる能力の向上を目指す。						
到達目標	①戯曲のセリフを明瞭にわかりやすく読み聞かせることができる。（汎用的技能） ②『夏の夜の夢』を通してシェイクスピア劇の基本的な特徴を説明することができる。（知識・理解） ③演技体験から、演劇に対する興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性）						
授業計画	1. イン트로ダクション：授業の進め方、グループの組み分け 2. 1幕：オープニングの人間関係とシェイクスピア劇 3. 1幕：職人たちとエリザベス朝の演劇 4. 2幕：妖精の世界とギリシア神話 5. 2幕：恋人たちのセリフ表現 6. 3幕：職人たちの性格描写 7. 3幕：タイターニアとボトムの夢の世界 8. 4幕：シェイクスピア劇の特徴としての夜明け。 9. 4幕：この場面の和解を強調するためにはどうしたらよいか。 10. 5幕：劇中劇の効果について 11. 5幕：バックの独白 12. プレゼンテーションに向けて：配役の決定、読み合わせ 13. プレゼンテーションに向けて：効果的な表現方法 14. 各グループによる発表 15. 授業の総括、要点のまとめ。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	（授業前準備学習）各回授業で扱うテキスト（戯曲）を読み、理解できない言葉をしっかり調べて精読し、小さな声で音読しながら発話が難しい箇所を確認しておく。また、授業で提示された課題のテーマについても事前に調べておく。（学習時間2時間程度） （授業後学習）授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：各回で取り上げられるテキスト（戯曲）の1場面を、グループに分かれて役を振り音読する。音読後に、この場面の登場人物の目的、そしてそれを表現する効果的な読み方をディスカッションする。この結果を受けて、必要な知識、情報などの解説を映像資料なども使いながら講義する。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40％）、最終プレゼンテーション（30％）とレポート（30％） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。（到達目標②と③） 期末プレゼンテーションとレポート：『夏の夜の夢』の一場面をグループで演じる。その際にどのようなセリフ表現の工夫を試みたか、そのためにどのような取り組みをしたかをレポートについて提出する。（到達目標①と②） 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションの講評は最終の授業で行い、レポートに関しては松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションとレポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、1983						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導を行う。						
到達目標	(1) 自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることができる。【知識・理解】【汎用的技術】 (2) 研究の仕方を学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	前期 1 イントロダクション 2 卒論の書き方①： 卒論とは？ 3 卒論の書き方②： 資料収集の方法 4 卒論の書き方③： アウトラインの作成 5 卒論の書き方④： パラグラフを書く 6 卒論の書き方⑤： 文章の形式を守る 7 卒論の書き方⑥： 文章をきれいに整える 8 卒論の書き方⑦： 文章を推敲する 9 論文講読 10 卒論テーマ・アウトラインの発表① 11 卒論テーマ・アウトラインの発表② 12 卒論テーマ・アウトラインの発表③ 13 卒論テーマ・アウトラインの発表④ 14 卒論テーマ・アウトラインの発表⑤ 15 卒論テーマ・アウトラインの発表⑥ 後期 16 卒論中間発表① 17 卒論中間発表② 18 卒論中間発表③ 19 卒論中間発表④ 20 卒論中間発表⑤ 21 卒論中間発表⑥ 22～28 個別指導による論文作成 29～30 提出に向けた最終確認 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 発表を担当するときは、文献探索、資料収集、文献精読を踏まえたうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間） 授業後学習： 発表後のディスカッションの内容を整理し、卒業論文に反映させる。（学習時間：1時間） また、授業前後を通して卒業論文の執筆に取り組む。						
授業方法	演習： 卒業論文の内容発表およびディスカッションを行う。また、個別指導による指導を実施する。 講義： 卒業論文の作成方法に関する解説を行う。						
評価基準と評価方法	卒業論文 80%： 卒業論文で扱った内容を理解しているか、および、形式を守って論文が書けているか、を評価する。また、卒業論文を通した興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。 授業態度 20%： 発表の準備度合いおよびディスカッションへの参加度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	教員への進捗状況の報告、相談などコミュニケーションを欠かさないこと。 自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中に指示する。						

参考書	授業中に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	演劇や映画を中心に個々人が関心のあるテーマを選んで問いを立て、それに関する資料収集・分析・検証、そして卒業論文の作成指導を行う。						
到達目標	①情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に再現する高度なコミュニケーション能力の習得（汎用的技能） ②自立した人間としての自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得（態度・志向性）						
授業計画	前期 1. 卒業論文作成の進め方 2. 卒業論文の書き方・作成の仕方① 3. 卒業論文の書き方・作成の仕方② 4～6. 卒業論文に関する個人発表：文献の要約 7. 批評の方法論① ジェンダー論 8. 批評の方法論② 間テクスト性 9～14. 卒業論文に関する個人発表：主要テクストや上演作品の選定 15. 問題の絞り込みと夏休み期間の研究計画 後期 16. 夏休み期間の研究状況の報告 17～22. 卒業論文の中間発表 23～25. 個別指導による研究の展開と執筆 26. 初稿の提出 27～28. 提出前の点検 29～30. 提出論文の講評と再提出指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前期の授業では卒業論文の書き方や論文作成に有効となる批評理論の文献や資料を事前にまとめておく。 授業前・後学習：卒論のテーマを決定するために必要な資料収集や参考文献の購読などは、できうる限り集中的に時間をかけて行ってください。資料収集だけでもかなり時間がかかります。夏休み以降の卒論作成においても、週3日くらいは集中的にしっかりと作り込んでください。（学習時間6時間程度）						
授業方法	演習形式及び個別指導。演習では文献の要旨発表から卒業論文の中間発表などを行い、個別指導で論文作成の細かな指導を行う。						
評価基準と評価方法	中間発表20％、卒業論文80％ 中間発表：情報を収集能力、卒論の構成の仕方、自分の考えを表現する能力の評価。到達目標の①と②の到達度を確認する。評価に関しては、発表後個別に行う。 卒業論文：自分の考えを論理的にまとめるために、的確な構成と必要な情報収集が的確になされているかを評価する。到達目標の①の到達度を確認する。評価に関しては、学科の複数の教員にも依頼する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	各自のテーマに応じて決定していく。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	東西芸術の文化史／比較文化ⅠB							
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A32020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が合うとき、新しいものが生まれる。							
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で育まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれるが、その東西が合うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれてきた。西欧はどのように東方と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。							
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えることに気づく。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつ。【態度・志向性】							
授業計画	第1回 東と西 第2回 東西の世界観 第3回 キリスト教世界における東と西 第4回 まだ見ぬ東方世界へ 第5回 十字軍・大航海時代 第6回 日本と南蛮 第7回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクーー 第8回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第9回 シノワズリー・ジャポニズム 第10回 ジャポニズムと印象主義 第11回 異界のイメージ 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、書籍で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。 紹介した絵画や図書、映画も見てみて欲しい。							
授業方法	【遠隔授業】 講義形式（遠隔授業）。 松陰manabaを利用し、教材配信、レポート等を実施。 簡単なワークショップ、個人の発表、ディスカッションも取り入れたい。							
評価基準と評価方法	・平常点30%：毎回提出のリアクションシート（授業内容についてのコメント・課題に対する解答）。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 ・宿題レポートなどの提出物や発表など20%：授業内容についての課題に対する解答・自身の意見提示。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・期末レポート50%：授業内容の理解度と、歴史を踏まえ異文化交流とそこから生まれる新たな文化的展開について積極的に考察・展望する姿勢を評価する。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。							
履修上の注意	特別な事情を除き、原則として授業時間に受講すること。すべてのレポートは提出期限を守り提出すること。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。							
教科書	適宜、資料を配布する。							
参考書	授業中に随時紹介する。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	トピックの文化史／比較文化ⅡⅡA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A32040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	トピックとしてメロドラマ（悲恋物語）を取り上げる。 具体的には、日本・フランス、メロドラマを歴史的な流れに沿って比較する。						
授業の概要	日仏の文芸作品が、恋愛をどのように描いてきたかを映像と小説作品を通して考える。 具体的には、近松門左衛門の浄瑠璃、19世紀フランスの心理小説、戦前から戦後にかけての日本映画の3者を分析しながら、両国の文化的「エートス Ethos」（＝精神風土）の違いを明らかにする。						
到達目標	①日仏の映像メディアの恋愛の描き方を説明できる（知識・理解）。 ②それが両国の文化とどのような関係にあるかを説明できる（知識・理解）。 ③なぜそのような描き方になったかを、両国の社会とのかかわりにおいて説明することができる（態度・志向性）						
授業計画	1. 導入 2. 日本のメロドラマとは？ 3. 1960年代の悲恋映画：「愛と死を見つめて」 4. 2000年代の悲恋映画：「世界の中心で愛を叫ぶ」 5. 戦前の文芸作品：「野菊の墓」 6. 近松浄瑠璃：「大経師昔暦」 7. フランスの恋愛小説について 8. 19世紀フランスの心理小説の分析：「赤と黒」を読む 9. 戦前のフランス映画：詩的レアリスムを中心に 11. 戦後のフランス映画：「アデルの恋の物語」 12. フランス的個人主義と恋愛 13. 世間体と「あわれ」の情感 14. 日仏文化比較 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指定された作品を鑑賞、講読する（2時間）。 授業語学習：授業で言及された作品を調べ、鑑賞または講読する（4時間）						
授業方法	講義を原則とするが、関連作品の重要か所については、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）＋テスト（44％）＝100点 通常の授業においては、主に以下の2点を中心に議論する ①日仏の映像メディアの恋愛の描き方はどのように違うのか（30％）。 ②それが両国の文化とどのような関係にあるか（30％）。 テストでは「日仏両国の恋愛描写の違い」を、社会とのかかわりにおいて尋ねる問題を中心に出题する（40％）。						
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、失格とする。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	日本の近現代演劇／文芸講読VIA							
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A12070	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	如月小春の戯曲『DOLL』を読む。							
授業の概要	1980年代を代表する劇作家如月小春の『DOLL』を読む。戯曲を場面ごとに読んで、戯曲の構造を理解していく。そして戯曲と上演との関係も映像記録などを使って説明していく。また、テーマとなっている高校生の自殺という社会問題がどのように描かれているかの考察も行っていく。							
到達目標	①舞台上演を前提とした日本の小劇場戯曲の基本的な特徴について予備知識のない人がわかるように説明できるようになる。（知識・理解） ②現代社会という視点から戯曲を読み、現在の社会が抱える問題を分析して理解を深めて自分の考えを述べ、レポートを作成できる能力をつける。（汎用的技能） ③社会が抱える課題への関心を高め、自分でリサーチできる能力を身につける。（態度・志向性）							
授業計画	1. 作品の説明：上演記録、そしてテーマとその背景について 2. 小説と違った戯曲にある約束事についての解説 3. 第1場：場所の描写、登場人物の紹介 4. 第2場：みどりの人物描写、夢の世界の表現 5. 刑事たちと1980年代という時代の関係 6. 第3場：いづみの人物描写 優等生という苦悩、独白の役割について 7. 第4場：麻里の人物描写 高校生の受験に対する意識、将来の悩みとは 8. 第5場：京子の人物描写 大人への反抗とその理由 9. 第6場：恵子の人物描写 他人への気遣い、自己主張の難しさ 10. 第7場：海という存在についての考察 11. 第8場：刑事たちの劇における役割について 12. 第9場：「なぜ、少女たちはみずになったのか」というメッセージについての考察 13. まとめ① 象徴としての刑事たち 14. まとめ② 劇構造におけるサスペンスについて 15. まとめ③ このテーマは現代社会にも当てはまることなのかを考えてみる							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】各回授業で扱うテキスト（戯曲）を読み、戯曲の特徴や登場人物の心情の理解を深める。また次回の授業テーマと関連した課題として、提示された社会現象、歴史に関する事柄の詳細を調べる。（学習時間2時間程度） 【授業後学習】授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）							
授業方法	【遠隔授業】 講義：戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40％）、期末レポート（60％） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。（到達目標②と③の確認） 期末レポート：戯曲の社会的なテーマを議論して明確に述べ、戯曲と上演の特徴をどれだけ理解しているか評価する。（到達目標①と②） 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。							
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。							
教科書	授業時にコピーを配布する。							
参考書	『如月小春のフィールドノート』 如月小春（著）、而立書房							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸インターンシップ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A73120
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した10日間の就業体験を通して、専攻の分野がどのように活かされるか、また社会で働くことの意義を考える。						
授業の概要	①業務体験実習を通して、社会で働くことの意義とその働き方について考える。 ②業務体験実習を通して、職場の実態やビジネスルール、マナーを学ぶ。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける。 ①～③について、主体的に学び、将来の就業に向けてチャレンジできるようにサポートする。						
到達目標	1. 文芸作品がビジネスの現場で、どのように流通しているかを説明できる。【知識・理解】 2. 文芸作品が社会の中で、どのように取り扱われているかを説明できる。【汎用技能】 3. 文芸の知識を就職現場で生かす方法を知ることができる。【態度・志向性】						
授業計画	【事前学習】（6月、7月） 1. ビジネス基礎講座 ・インターンシップについて ・グループワーク ・会社の仕組み、ビジスマナーなど 2. 実習先の企業調査など ・実習先の内容研究 ・実習先とのマッチング ・履歴書の書き方など 【夏休みの就業体験】 ・実習①～⑩（各企業における就業体験） （原則、実習は10日間、70時間以上） 【事後学習】（9月） ・実習の振り返り ・実習の体験発表 ・グループディスカッション ・実習報告書作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文芸を取り扱っている現場（書店、劇場、Web, 他）に絶えず触れ、個々の作品がどのように商品として流通しているかを知っておく（30時間以上）。また、その際、関係者の接客態度や現場で必要とされる知識を観察しておくこと。						
授業方法	事前学習は、企業研究とその結果発表をグループ単位で行う。 就業体験は、実際の現場で70時間の研修を受ける（体験労働を含む）。 事後学習は、就業体験をグループでまとめ、発表する。						
評価基準と評価方法	事前学習の発表では、「文芸作品が社会の中で、どのように取り扱われているか」が的確に述べられているかを評価基準とする（20%） 事後レポートとプレゼンテーションにおいては、「文芸作品がビジネスの現場で、どのように流通しているか」が的確に言及されているかどうかを評価基準とする（20%） 実習先での報告日誌を基に「文芸の知識を就職現場で生かす方法を知ることができるかどうか」を評価する（60%） 疑問点、評価内容については、授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	①就業体験を「強く」希望する者のみの登録を認める。 ②原則として、遅刻・欠席は不可。特に、就業体験期間中は、遅刻欠席は認められない。 ③健康管理が、きちんとできる者のみの登録を認める。 ④研修先への交通費は、自己負担。 ⑤教員への連絡・報告・相談を怠らないこと。 （この科目は履修者制限科目です。4月以降の登録はできません。）						
教科書	プリントを配布						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習A						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A0308A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	① 文芸作品の意味を読み取り、解釈することができる。【汎用的技能】 ② 現代文化の重要作品を見分けることができる。【汎用的技能】 ③ 現代日本社会の文化現象を説明することができる。【態度・嗜好性】						
授業計画	1. 導入 2. 発表例の提示 (1) 作家 3. " (2) 作品 4. " (3) テーマ 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）の作品を鑑賞・体験する。（30時間） 事後学習：鑑賞・体験した作品の関連文献を読む。（305時間）						
授業方法	演習。テーマを取り扱った文章を読みながら、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）：棺応答の内容を3段階で評価する。 テスト（44％）：授業内容が理解できているかどうかを確認するテストを行う。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	文芸創作法／文芸との触れ合いⅠA							
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A22010	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の文法を学びながら、ヒット作の創作方法を探る。							
授業の概要	ハリウッド映画の法則、ファンタジーの文法について学ぶ。エンタテインメントと「芸術」の境界がどこにあるのかについても考える。							
到達目標	【知識・理解】虚構作品の法則性を指摘することができる。 【汎用的技能】物語を「劇」構築の観点から読み解くことができる。 【態度・志向性】文芸作品と娯楽作品の作劇術について説明できる。							
授業計画	1. 導入 2. 映画の脚本術（1）イントロダクション 3. 同（2）ファースト・インシデント 4. 同（3）ターニングポイント 5. 同（4）クライマックスとエンディング 6. 物語の文法（1）発端の状況 7. （2）禁止・留守・禁を破る 8. （3）援助者の出現・呪具の贈与 9. （4）敵の出現・戦い 10. （5）難題の解決と帰還 11. エンタメと大衆小説 12. 劇の構築（1）ギリシャ悲劇 13. （2）近松浄瑠璃 14. （3）溝口健二の映画 15. まとめとテスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：いろいろな物語を鑑賞する。（2時間） 事後学習：いろいろな映像作品を見る。（2時間）							
授業方法	講義。テーマについて解説した後、常に質問に答える質疑応答形式で行う。							
評価基準と評価方法	平常点（56％）：質疑応答の内容を3段階で評価する。 期末テスト（44％）：講義内容を問う。 通常授業時の質疑応答では、虚構作品の法則性に気づくことができるかどうかを評価基準とする。 講義内容を問う問題では、物語の法則と虚構作品における劇構築について尋ね、理解の程度に応じて評価する。 。また、両者において、文芸作品と娯楽作品の作劇術の違いについて問う。							
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は受験資格を失う。							
教科書	プリント配布。							
参考書	芦刈いずみ『時計仕掛けのハリウッド映画』（角川SSC新書） W・プロップ『昔話の形態学』（水声社） 大塚英志『ストーリーメーカー』（星海社新書） さやわか『文学の読み方』（星海社新書）							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅰ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A64010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、サブカルチャー現象（マンガ誌、ホラー映画、アメコミetc）を分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. 少年マンガ誌（1） 3. " （2） 4. " （3） 5. ホラー映画（1） 6. " （2） 7. " （3） 8. アメリカンヒーロー（1） 9. " （2） 10. " （3） 11. 宮崎アニメ（1）（2） 12. " （2） 13. " （3） 14. 日本のマンガ、アニメ、映画 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの報告 2. 発表（1） 3. （2） 4. （3） 5. （4） 6. （5） 7. （6） 8. （7） 9. （8） 10. （9） 11. （10） 12. （11） 13. （12） 14. （13） 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）に頻繁に触れ、たくさんの作品を鑑賞する。（30時間）						
授業方法	演習：受講者の発表を中心に質疑応答形式で進める。						
評価基準と評価方法	発表点56％、テスト44％ 発表はテーマの理解度と独自性を基準に評価する。筆記試験は授業の内容理解を基準に評価する。 質問、評価内容については、授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	出席重視。発表を義務とする。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に指示する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	メディア社会の諸問題／文芸特殊講義ⅡIB							
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A43030	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会							
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられる。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すこともある。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、容易に編集・加工されたりもする。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアだが、それゆえときに問題を引き起こすことがある。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特性やそれがもたらす問題について考える。また、実際に写真を撮ったりレイアウトを考えることで、それらを実践的に理解していく。							
到達目標	（１）写真を批判的に読み解くための方法を身につけることができる。【知識・理解】 （２）写真の撮影やレイアウトを通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができる。【汎用的技能】							
授業計画	1 イン트로ダクション 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真（１）：報道写真 5 報道と写真（２）：異文化の表象 6 消費と写真（１）：観光写真 7 消費と写真（２）：キャプション 8 中間発表会 9 文化と写真（１）：写真を編集・加工する 10 文化と写真（２）：写真撮影の技法 11 写真で表現する（１）：テーマを決める 12 写真で表現する（２）：「なにを伝えるか」を決める 13 写真で表現する（３）：レイアウトを決める 14 制作課題発表会 15 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前後学習： 中間課題および期末課題の一部については、授業外に行うことがある。（学習時間：４時間）							
授業方法	講義。中間課題や期末課題に際しては、個人やペアによるワークをする。							
評価基準と評価方法	制作課題 70％（中間課題20％＋期末課題50％）： 授業で学習した内容や技法を踏まえて課題が作成できているか評価する。到達目標（２）の到達度の確認。 授業態度 30％： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（１）の到達度の確認。 なお、中間発表会および制作課題発表会を実施し、制作課題に対する評価をフィードバックする。							
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。							
教科書	毎回プリントを配布する。							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアとジャーナリズム／文芸特殊講義ⅢⅠA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A43020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代メディア産業とジャーナリズム						
授業の概要	インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムやメディアに関する基本的な知識を知っておくことは重要である。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき報道やメディアについて概括的に学ぶ。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、インターネット時代におけるメディア産業のあり方や問題を考える。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題についての知識も身につける。						
到達目標	(1) ジャーナリズムやメディアについての基本的な知識を得ることができる。【知識・理解】 (2) 身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力を身につけることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1 イントロダクション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま(1)：新聞社 4 メディアのいま(1)：ネット時代のニュース 5 キーワードから読み解くニュース(1)：報道の自由 6 メディアのいま(2)：出版社 7 メディアのいま(2)：ネット時代の出版 8 キーワードから読み解くニュース(2)：報道被害 9 メディアのいま(3)：放送局 10 メディアのいま(3)：ネットとテレビ 11 キーワードから読み解くニュース(3)：炎上 12 メディアのいま(4)：インターネット 13 メディアのいま(4)：ウェブ・コンテンツ 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。(学習時間：2時間) 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義。一部、簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標(1)および(2)の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	マスコミ関係に就職を希望する者は受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書、1997年						